

一 日 林 産 試 験 場

北 沢 陽 夫

昨年8月の根室地区を皮切りに、道林務部・林産試験場・関係支庁並びに業界団体主催による「一日林産課・林産試験場」が、7支庁を対象に実施された。このような催しは、かつて昭和39～40年度において、林産試験場単独の型で行われたことがあるが、行政部門との滞同での計画は今回が嚆矢である。

49年の実施地域は道東及び道南が主体で、第1回が根室・釧路・十勝地区、第2回が日高・胆振地区を各支庁単位で、第3回は渡島・檜山地区を一括して、ほぼ全道の半数の区域に対して行った。対象業種は製材、二次加工業界を想定し、事前に聴取した各地区の要望意見を参考にしながら、なるべく地域の意向を盛りこんだ内容になるよう話題の選定、チームの編成に努めた。

なお、予定した提供話題の内容は、時間の制約などもあって会場で十分に説明し得なかった向もあったので、それらのうち主なテーマについて別途掲載の予定であり、本稿ではそれらの総括及び経過などをかいつまんで報告する。

一日林産試験開催の主旨

林産試験場の担当業務である木材加工技術に関しては、直接・間接に亘りかなり巾広く業界に接してきたとはいえ、製材をはじめとする多業種に分岐する木材関連産業界に対し、いわば“痒いところに手が届く”ほどにいたるまでには、現実的になかなかの困難が伴う。昭和25年林業指導所の名称で発足以来、嘗々四半世紀。その間つねに産業界の実情を直視、新技術の開発や旧来の不確定技術の解明に取り組むなど、鋭意研鑽努力を重ねてきたところであるが、さらにそれらのすべてを道内業界の隅々にまで普及徹底することは、種々の事情もあり、即座に実行することはまことに難事といわざるを得ない。

そこでそれらの問題を多少なりとも補填する意味において、場長以下担当部科長を網羅して直接現地へ出向き、最近における木材加工技術、地域ごとに提起された問題点を中心に、あらかじめ準備しておいた技術的内容を説明披露するほか、その場での質疑に応ずるなどして、関連業界と林産試験場との一層の技術的交流を深める目的をもって計画されたものである。

主な提供話題

前記したように、あらかじめ準備した話題は可及的地域の要望、特色に適合するよう組み合わせを考慮し、おおむね次の内容から6～7項目を選び、1項目につきおよそ30～40分の持時間で一通り解説、最後に40～60分間総括質問を受ける要領で行事を進めた。

- 1) 林産試験場の研究及び技術の指導普及の現状
- 2) 乾燥技術
- 3) 製材の高次加工
- 4) 輸入外材の材質特性と利用
- 5) カラマツの材質特性と利用
- 6) 道産スギの材質特性と利用
- 7) 製材工場の近代化と技術改善
- 8) 木材工業の団地化・協業化の問題点
- 9) 樹皮、のこ屑の利用
- 10) プナ材の保存処理

上記のうち、1)についてはもっぱら場長が担当、該行事の計画した主旨、試験・研究並びにそれら成果の普及・指導などの動向を述べ、2)の乾燥技術では地域に応じ人工乾燥の一般的な内容の解説、各種乾燥施設の特徴あるいは圧縮・薬品などによる特殊乾燥法を説明した。3)の製材の高次加工では、各種住宅部材生産用の製造機械の特徴・価格などのほか、当场が近年手がけてきたカラマツ小径材の集成若しくは板材のエンボス加工等について、4)5)6)ではそれぞれについての材質特性や利用上の問題点などを主体に、7)は最近に

おける製材関連施設の変革動向や特徴を趨勢的に述べた。8)の団地化・協業化では、本州方面での協同事業の実態から、今後の本道における木材工業へのそれら事業実施にあたっての示唆的な面を強調、9)はとくにこの屑の利用について、既に実用化している飼料、家畜の敷わら代用などの実例を交えて紹介、10)のブナ材に関しては、伐倒後の丸太の防腐処理を中心に説明がなされた。

全般的には、東部(根室、釧路、帯広)のカラマツ多生産地域ではカラマツに関する話題を、南部(渡島、檜山)ではブナ、スギなどを重点的にとりあげ、極力地域性加味につとめた。

地域ごとの質疑動向

予定したテーマの説明終了後、参加者から自由質問を受けたが、そのうち主なものを地域ごとに列挙すると、次のようなものであった。

- ・根室地区(会場:中標津町職訓センター 55名)
道内カラマツ加工工場の実態
カラマツチップの特性(他樹種との対比)
カラマツの伐採時期と腐朽性との関連
カラマツの防腐処理法
のこ屑、樹皮の施肥効果と加工処理法
- ・釧路地区(会場:釧路市林業会館 66名)
N、Lなど比重差のある材の接着性
機械かんによる逆目防止法
エゾマツ、トドマツ材の2×4工法採用可否
ロータリーレス厚剥きによる魚箱製造の可否
無毒性の防カビ剤
- ・十勝地区(会場:帯広市宮本会館 84名)
樹皮により汚染された水の人畜への毒性
ポリエチレン・グリコールのL材への割れ防止効果
カラマツの脱脂、脱臭法
最適乾燥機
- ・日高地区(会場:静内町公民館 61名)
ポリエチレン・グリコール処理材の塗装への影響
ポリエチレン・グリコール処理の所要経費
無毒性の防カビ剤
減圧および煮沸乾燥の特徴
塗布により好適な丸太木口割れ防止剤
醗酵媒体を使用しない樹皮の完全堆肥化

- ・胆振地区(会場:苫小牧市日胆ビル 44名)
在来工法と2×4工法の木材使用量
苫小牧木材港団地造成の困難性(経過説明)
- ・渡島・檜山地区(会場:亀田町福祉センター120名)
道南(木古内町)に林産試験場の分場設置(要望)
これらの質問項目のみによって、それぞれの地域における現時点での木材加工技術に関する疑問点のすべてが提示されたと判断することは早計と思われるが、一応の目安と類推することはできよう。もとよりこの種の行事型式では、日頃いくつかの質疑事項は持ち合せていながら、とかく不特定多数集合の席という特殊なムードに左右されるため発言しにくいことも考えられ、それらの点を考慮外としても、本行事内容への業界側の深い関心の程が示されたと見て差支えあるまい。

実施後の反響

- 今後の開催の参考に資するため、行事終了後実施地域を訪れ、各代表者から行事に対する忌憚のない所見を求めてみた。それによると、いずれの地域も一樣に、毎年引続いてこの種事業の開催を希望すると同時に、次のような共通的要望が寄せられた。
- イ 提供話題が一方的すぎた。前もって業界の要望事項を十分に聴取し、それらを織り込んだ内容を望む。
 - ロ 提供話題が多彩な上、時間をとりすぎる。あらかじめ準備した話は簡略にして、質疑応答の時間を多くして欲しい。
 - ハ 立場の異なる層の集合のため質問がしにくい。グループ分けして質問のしやすい方法が考えられないか。
 - ニ 技術と行政と同時開催よりも、技術なら技術のみに集中してほしい。

以上が昭和49年度に実施した「一日林産試験場」のあらましであるが、今回は当該地区の行政担当者並びに関係諸団体の方々の絶大なご協力と業界からの積極的な参加により、一応の成果は収め得たものと思される。

しかし、前記した実施後の反響に示されたように、行事の運営面においていくつかの改善すべき点が含まれており、今後の開催にあたってはそれら指摘事項などを十分に考慮に入れ、一層の実効ある内容にしたいものである。

- 指導部長 -